



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2014年5月 Vol. 9

Goma Shot! -今月のゴマ-



日本で限定販売中のゴマ・コーヒー！

死ぬまでに一度は行きたいコンゴ民の宝石☆ゴマ

コンゴ民で暮らす誰もが憧れるゴマ。誰に聞いても「息をのむほど美しい街、湖畔で過ごす優雅な時間と美味しい食事、そこはまるで楽園…☆」って本当のところどうなの？…というわけで今回はゴマ特集！

そこには、確かに紛争の爪痕が残つつもかつての優美さを湛える街、変わらぬ湖畔と確かに美味しい(かつ安い!)食事がありました。何よりも、過去約20年に亘る紛争の舞台となつてなお、活気に溢れ、またどない復興の好機を確実に捉えるべく、逞しく生きる人々がいました。

そんなゴマのコーヒーが日本で限定発売中♪遠い日本から、度重なる紛争を乗り越え、「今度こそ」と復興に全力を傾けるゴマの人々に思いを馳せて頂ければ幸いです。

ゴマの魅力-日本とゴマの意外な関係-

Goma Life! -ゴマで生きる-

乳製品で有名なゴマ。火山で有名なゴマ。「アフリカの軽井沢」で有名なゴマ!! 右上の写真は宿泊先の窓から見た景色です。軽井沢どころか、「あ、スイスの写真でした。間違えちゃいました。(てへ☆)」と言っても通用しちゃうんじゃないですか??

そして市場エリアに足を踏み入ると、そこはバイク天国! その数およそ16,000台以上!!…なんかこの雰囲気、どうもコンゴというよりも東アフリカのテイストを感じませんか?(感じますよね!?)それもそのはず、ゴマで売られている工業製品の多くはケニアやタンザニアの港から陸送されています。つまり、もはや東アフリカ経済圏! バイク文化もお隣からの輸入なのかもしれません。

もう一つ。なんと、ゴマには二宮金次郎(お母さん版)がいる! これは何を意味するのか? おそらくこういふことだろう。「ゴマの人々と日本人のハートは二宮金次郎でつながっている。」…もう、ゴマは日本の親戚なのです。

食べ物よし、景色よし、バイクよし、金次郎もよし(?)のゴマ。紛争さえ落ち着けば、そのポテンシャルを活かして、人々の生活に行き渡るような発展がきっと待っているはず!



(上)アフリカのスイス?

(中)市場はバイク天国

(下)ゴマの二宮さん?

Eat Goma! -ゴマで食べる-

乳製品!!!

飲むヨーグルト→
優しい甘さに癒され
れます♡



新発売のゴマチーズ
4種とフレッシュ・ゴ
マチーズ♪

ゴマと言えばゴマ・チーズ! 何かとお土産物が少ない(現在鋭意開拓中)コンゴ民において、万人受けするお土産として大人気♪ゴマに来たのに買わずに帰れるか! っと欲望に任せてゴマ・チーズ大人買い、笑。チーズを異様に買いあさる不気味な日本人にも親切なゴマの人達。「(そんなに)チーズが好きならこれもどう?」と同じ牛のマークが入った袋が。

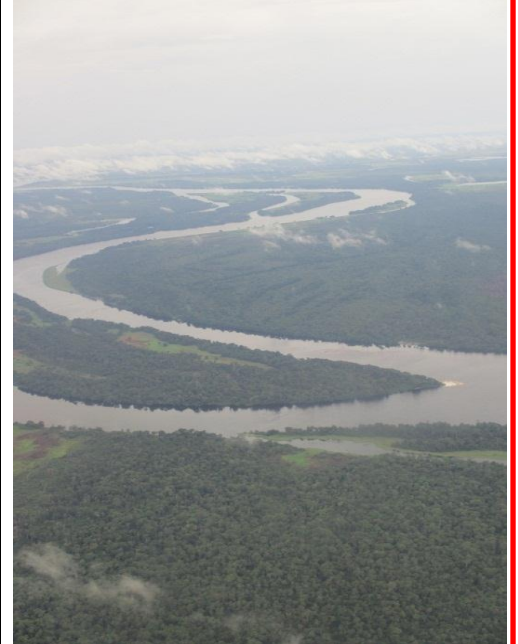
…買ってはみたものの、ちょっと怖い。怖いけど好奇心には勝てない、笑。ビニール袋の上端をちょこっと切ってストローを差し込む。もったいとした液体を吸い上げるのに苦勞する。美味しいっ☆☆☆まさに甘さ控えめの飲むヨーグルト♪これなら日本でもイける! こんなところに起業チャンスが♡…続いて買ったばかりのゴマ・チーズも試食。キンシャサで食べるものより匂いも少なく、柔らかい。本当にできたてほやほやな感じ。生きてて良かった(号泣)。

よし、また来るぞゴマ! と凱旋帰国したキンシャサにてなんと! 新種のゴマチーズを発見☆ピリピリ味、ペッパー味、ハーフ味、マスタード味の4種。どれも美味しい、サイス的にもお土産にばっちり! 現在絶賛予約受付中♪♪♪

世界の両肺、と言われて何を思い浮かべますか？一つはアマゾン、そうすればもう一つは？！当然コンゴ盆地ですね(当然じゃない?)、世界の常識です(だから知らないって!)。では改めましてご紹介☆コンゴ民主共和国は国土の6割以上が森林に覆われており、コンゴ盆地と呼ばれる世界第2位の面積を誇る熱帯雨林の一部を形成しています。よくあるアフリカの代表的なイメージ(サバンナ+動物)や[荒涼とした砂漠]はコンゴ民の得意分野ではありません、笑。

さて、そんな貴重な森林とその愉快的仲間たち(オカピとかボノボとか)。よく耳にする環境問題と同じく、存続の危機に瀕しています…おそろく(!)。決してテキトーなことを言っているのではなく、そうなのかどうか分からないのです。森林は減っているらしいけど、どれだけ、どうして、どこで減っているかわからない。これって見かけよりずっと深刻。肺が一つなくなったら…?? 地球の寿命が縮んでしまいます! タイヘンダ!!!

んじゃ、まずは今どうなっているのか調べないかね、ってことで始まったJICA/JAFTA森林プロジェクト(正式名称は長すぎるので割愛)。担当専門家曰く、「お医者さんが患者を診察して、病気の正体を探す」と目的を同じくしているという。「どこが悪いかわからないと治療方法が決まりませんから。」確かに森林の話をしているはずなのに、なぜか白衣のイメージが…??でもどうやって森林の病気を探すの…?(続きは次号♪)



雄大なコンゴ盆地とコンゴ河

アフリカン・タイムで国立保健人材養成校(INPESS)開校!

コン月のイベント



↑輝く一期生◎

無償資金協力「キンシャサ保健人材センター整備計画」。2013年7月完工の8カ月後、大統領・上下院議長・首相・州知事等々の錚々たるメンバー約150名が参加して引き渡し式を開催! 富永大使の離任前日「アフリカと共に歩いた40年」を飾る有終の美。

思い起こせば、建設中も不法滞在者撤去、資材輸入遅延、資材盗難、地中の廃棄物処理などハズニング続出。それでもたったの(?)3か月遅れで竣工し、他校からは約1か月遅れて2013年9月末にめでたく開講。今年度は想定されていた5コースの内、看護師と助産師コースのみで始めると合意した…んが始めてみると準薬剤師コースの学生がいる。…十せ?と思いつつ、でも頑張れ!と応援してみる。

想像を絶する困難が次から次へと襲いかかり、あの土地は呪われているという噂もでるほどであったが、それも今は昔。真新しい校舎で真剣な眼差しで学ぶ生徒達をみると、なんだかこちらまで気持ちが引き締まる。新しい校長も国で最初の「パイロット校(全国から生徒を受け入れる)」校長として、やる気満々。残るは大統領臨席のもと、盛大なお披露目を…!

…そんなこんなで漕ぎ着けた開校式。保健大臣はおもむろに「大統領が来るからには、中古では開校式はできない。コースが始まっているのは、とていえず秘密ね♡」え??当日、外に学生を並ばせるのに???…こんなバタバタ劇も、キンシャサならでは。みなさま、コンゴもよろしく~。

愛すべき?コンゴ人



所属: INPESS校長

氏名: マルセル・バロアニ

INPESS期待の校長先生、ムッシュバロアニ。昨年9月に開校したINPESSは彼が校長に就任したおかげでやっと動き出すことができました。現在は1年生、3コースのみの運営ですが、彼がリーダーシップを発揮し、近い将来全5コース、4年生までの授業実施を目指します。INPESSの未来は彼の手腕にかかっている!!

編集後記

<☆今月のリンガラ語☆>「トベンガナ」
今回はかなり実用的。コンゴ人との日常では一日何回使うかわかりません。答えは次号!

そして、前号の答え。「ナザリ・モンゼンバ」=「私は独身です」、これがウケるのは万国共通ですね(違う?)。真実であっても無くても(!)一度是非お試しあれ!

さて、満を持してお届けしたゴマ特集。お楽しみいただけましたか?さすがにキンシャサをないがしろにし過ぎたので、そろそろ次は戻ろうかな…。